

ウドの高品質・安定生産に向けた弱休眠性品種の育成研究

【研究概要】

東京特産野菜の軟化ウドは休眠性が深いため、高単価の見込める促成栽培の年内収穫で品質・収量が不安定となっている。園芸技術科ではこれまでに弱休眠性品種の育種研究に取り組み、有望系統の作出に成功した。さらに、新品種の効果的な普及には、重労働の根株養成・株割り作業が不要となる培養苗の生産体系の確立と、新品種保護のための品種識別マーカーの開発が併せて必要である。そこで本課題では、第一に弱休眠性の新品種の育成、第二に培養苗を用いた生産体系の確立、第三に品種識別等を可能にするDNAマーカーを開発することを目的に試験を実施した。その中で、今年度は下記の3つの成果が得られた。

- (1) 新品種の育成：有望系統（TU-2～7）について特性評価を行い、2系統（TU-3,6）に絞り込んだ。有望系統TU-3,6について現地試験を実施した。
- (2) 培養苗の生産体系の確立：「都」について培養苗由来の株分け苗（3～4年目）の栽培評価を行った。
- (3) DNAマーカーの開発：GRAS-Di解析をもとに作成した27のSNPプライマーを供試し、「都、湖北系3」でPCR解析を行い、有望な3プライマーを絞り込んだ。